

あさお 一郎

活動レポート Keiichirou

2018年10月号 No.282

The改革。

私たちは進み続けます。



あさお慶一郎(本人)が
発信しています!



http://twitter.com/asao_keiichiro



<http://facebook.com/asao.keiichiro>

皆様からの いいね! をお待ちしております!

今月の提言

人口減少社会における自治体間競争

日常生活では実感しない 人口減少社会

我国の人口が減少している。その認識はかなり共有されてきたのではないだろうか。少子高齢化という言葉を紙面で見ない日はありません。しかしながら少子高齢化の進展は非常にゆっくりです。言葉は踊れど、普段の生活で実感することも少ないかもしれません。私の選挙区は、東京から40キロから50キロの範囲に位置する横浜市栄区、鎌倉市、逗子市、葉山町で、実は神奈川県内でも高齢化率が最も高い地域です。しかし、住民の方々が普段からそうした意識を持っているかといえば、決してそうではありません。

首都圏 所得減のドーナツ

先日、日本経済新聞に「首都圏 所得減のドーナツ」という記事が出ていました。日本の高度成長期に当たる昭和30年代から50年代にかけて東京から40キロから50キロの範囲の1帯では住宅建設が盛んでした。当時、マイホームを手に入れた方々が次々に定年退職し、その影響で地域の所得が減少するという傾向が表れているというのです。東京に近い地域では、近年、タワーマンションも増え、若い世代が移り住む環境が整っています。しかし、一方、東京から40キロから50キロ離れた地域の若者の間では、より東京に近い地域に移り住みたいという傾向があるようです。そ



んななかで第一世代の定年退職が重なり「所得減のドーナツ化」現象を加速させたと考えられます。

逗子市の財政危機

財政が非常に厳しくなったことをうけ、逗子では今年、花火への市の助成金が全額カットされてしまいました。こうしたことは、高齢化が進展し、所得が減少する自治体ではどこでも発生しうることもかもしれません。

「職」と「住」を兼ねた街としての魅力を!

では、「所得減のドーナツ化」を食い止めるために何をすべきなのでしょう。やはり、地域の魅力を更に高めてゆくことです。あえて遠くでもここに住み、東京に通うという人を増やすことです。同時に地域における職住接近の魅力のある職場を増やすことでしょう。緑豊かで、海も近い横浜市栄区、鎌倉市、逗子市、葉山町は、研究開発の拠点として、またSOHO型の起業の街として、十分な可能性を秘めた地域です。人口減少社会だからこそ、「住」と「職」を兼ねた街としての魅力を高めてゆく政策が大切なのではないでしょうか。地域の魅力を高める自治体のため、私も国政の観点からその後押しのできる政策を積極的に打ち出してゆこうと考えます。

前衆議院議員 浅尾 慶一郎

浅尾慶一郎事務所

〒247-0056 鎌倉市大船1-23-11 松岡大船ビル5F
TEL. 0467-47-5682 / FAX. 0467-47-5626
ホームページ <http://www.asao.net>
Eメール info@asao.net

あさお慶一郎の モバイルサイト

「アイコンット」の無料
アプリをご利用ください。



profile

昭和39年2月11日生まれ
栄光学園高校、東京大学法学部卒業
日本興業銀行出身、証券アナリスト
米スタンフォード大学経営大学院 (MBA) 修了
玉川大学 講師

平成10年 参議院議員選挙初当選
平成16年 参議院議員選挙当選(2期目)
平成21年 衆議院議員選挙初当選
平成24年 衆議院議員選挙当選(2期目)
平成26年 衆議院議員選挙当選(3期目)

至善堂 大船ビルSF ●みずほ銀行

特別賛助会員募集・ 各種イベント申込

「あさお慶一郎君を応援する会」では浅尾慶一郎の政治活動を支援する一助として「特別賛助会員」(5,000円/年)の募集を行っております。ご入会された方には、大船在住の『鎌倉大船イトウデザイン』代表伊藤ヨシノリさんがデザインを手掛けた、平成30年の干支である「戌」の「オリジナルピンバッジ」をお送りさせていただきます。



お申し込み記入欄

イベント	<input type="checkbox"/> 特別賛助会員 ※お申込みをされる項目に✓をしてください
お名前	
ご住所	〒 _____ _____
生年月日	年 月 日
電話	
携帯電話	
E-mail	_____

お申し込みFAX番号 0467-47-5626

各種入会・詳細に関しましては、「浅尾慶一郎事務所」ホームページ
[http://asao.net/asaokai/] 又はTEL.0467-47-5682までご連絡
ください。

今月の 浅尾慶一郎 × 川西 剛

-Interview-

対談

かつて最先端の半導体製品DRAMで世界を席巻した東芝。その半導体事業を率いた元副社長 川西 剛氏にお話を伺いました。

浅尾: 今日では日本の半導体の草分けとして半導体事業を育ててこられた川西さんにお話を伺いたいです。かつて強かった日本の半導体が、今はそれほどでもないという現状があります。日本の半導体の目指すべき道は、どういう方向にあるのかお話を伺いました。

川西: まず半導体は単体ではなくて、ソフトと一緒にあるものと考えています。ただ単にモノを作る「ものづくり」ではなくて、付加価値を取り込んでつくるべきものが半導体だと思って今までやってきました。その良い例がLSIです。トランジスタの発明から10年してLSIが出てきました。トランジスタに電気抵抗やコンデンサなどを組み合わせ、一つの回路としてLSIができる。まさに単なるモノづくりではなくて、ソフトという付加価値をつけたものがLSIです。

浅尾: なるほど、半導体は付加価値を取り込んでつくるべきもののお考えですね。技術的には如何ですか？

川西: 半導体はシリコンウェアの表面のごくわずかな平面しか使っていません。その表面をいくら細かくしていても微細化には限界があります。平面は無理でも、タテ方向には未だ余裕があるので、平面から立体へというのが最近の動向です。ただ、タテに穴を掘る事を精密にやるというのは複雑な回路構造をもったLSIには極めて難しいことです。現在、着手されているNANDフラッシュのようなメモリーですと同じ構造を作っていけば良いのでタテ方向にも広げていけます。今現在は64層になっており、まもなく100層になろうとしています。

浅尾: なるほど、今日は興味深いお話をありがとうございました。



かわにし つよし
川西 剛

- ▷ 1929年2月19日生
- ▷ 東京工業大学電気工学科 卒
- ▷ 1952年東芝入社。取締役半導体事業本部長を経て副社長。
- ▷ 米国アプライドマテリアル社外役員、中国SMIC社外役員他。
- ▷ 現在はTEKコンサルティング代表の他、日本イスラエル商工会議所副会頭、アクセンチュア顧問を務める。1999年シンガポール国よりスター勲章授章。

役員が揃って出席。更には自民党本部から伊吹文明元衆議院議長、山東昭子元参議院副議長など多くの自民党国会議員も来賓として登壇。二階幹事長のビデオメッセージに続いての講演では、志帥会最高顧問でもある伊吹文明先生からの「皆さんの力で次は国会に送り返していただきたい」と力強いお言葉をいただき、続いて各代議士の方々からも熱い応援をいただきました。

会場にお越しいただいた多くの方々からは「熱気溢れる良い機会だった」「とても面白かった」などのお声をいただきました。今後に向けて大きな力となりました。本当にありがとうございます。これからまた更に宜しく願います。



当日はあいにくの雨が降る中にも関わらず、横浜市栄区をはじめ、鎌倉、逗子、葉山の各地から本場に多くの女性の皆様に栄公会堂へお越しいただきました。総会式典では現在各地にある後援会の

9月25日、あさお慶一郎 女性の集い設立総会が400人を超える出席者の皆様をお迎えして盛大に開催されました。女性の集いで従来からさまざまな趣向を凝らして、勉強会を企画し、地域の女性の皆様と一緒に学んできました。そうした中、積極的に会員の募集を行ったところ1,000人を越える女性の集い会員の皆様にご入会いただくようになりました。これを一つの契機として、今回正式に後援会組織として設立することになりました。



活動
報告

「女性の集い設立総会」

あさお慶一郎